

千曲市復興計画（令和元年東日本台風災害）（案）に対する意見募集結果

○貴重なご意見ありがとうございました。提出された意見の概要及び市の考え方は次のとおりです。

No	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	災害の詳細がまとまっており良い資料であるので、さらに肉付けし復興計画とは別に恒久的に公開して欲しい。	災害に関する資料としてホームページ上で恒久的に公開いたします。
2	水位について、千曲市に関連性がある場合は生田水位観測所の時刻水位も掲載して欲しい。	ご意見のとおり掲載いたします。
3	地域力の回復について具体的な記載が必要では。（何が衰退しているのか等）	被災により一時的、もしくは恒久的に転居を余儀なくされた方がいらっしゃることから、地域のコミュニティに変化が生じており、そういった状況を立て直していくことを指して「回復」という言葉を使用しました。 地域力は今後の防災を考えるうえで「共助」を担う中心となります。 具体的な内容としては、52・53ページに記載した「地域防災力の向上」に関する取り組みとなります。
4	策定経過などの資料も事前に公表すべきでは。	住民説明会の期間にあわせて再度パブリックコメントを実施しますが、その際に資料を添付いたします。
5	杭瀬下地区の被害について具体的な数字を載せ、市全体と杭瀬下の比較検証をすべきでは。	台風災害を市全体のものとしてとらえ、今後の指針とするという復興計画の方針として、あえて地区を抜き出すことは避けたいと考えております。
6	住家被害についても被害の概算額を載せることで、被害の甚大さを理解しやすくなるのでは。	被害の大小は金額で表せない部分があると考えておりますので、被害件数と内訳のみとさせていただきます。
7	今回の災害では五十里川流域では住家被害がなかった。流域ごとに住家被害を総括した上で今後の方針を立てるべきでは。	住家被害ではありませんが、流域ごとの被害に関しましては、浸水状況の調査により総括し、対策方針を検討しています。
8	復興計画は目標ではなく実行。例えば「目標とする期間」ではなく「実施する期間」とすべきでは。	ご意見のとおり、「実施する期間」に改めます。

9	遊水地の整備は令和9年度までとなっているが、もっと期間を短く2～3年で形にすべき。	遊水地整備については緊急性が求められるため、現在国（千曲川河川事務所）では令和6年度を目標とし、早期に効果を上げるように計画を進めています。
10	河道掘削が急務。国と連携し進めて欲しい。	国（千曲川河川事務所）では、河道掘削により流れが良くなる部分をシュミレーションしており、短期間でより効率的に河道掘削が行えるよう計画しています。市としても早期の実施を要望しており、掘削土砂の処分等国と連携を図りながら治水対策を進めてまいります。
11	千曲川の堤防のうち、ダメージを受けた箇所や、危険箇所の補修・補強を急いで欲しい。	被災した堤防箇所は現在国で災害復旧工事を実施しており、早期完成を目指して進めています。また、危険箇所として認識している部分についてもあわせて堤防補強工事が行われています。
12	大型土のうを見たが、本当に霞堤の安全を確保できるのか。	大型土のうは昨年のような浸水被害を軽減させるために設置し、コンサルによるシミュレーション結果でも効果があると確認されています。ただし、水防活動による応急的な対策のため、抜本的には遊水地整備が必要と考えています。
13	東林坊川への大型土のう設置の判断基準は何か。	東林坊川への土のう設置は、通常の流れ能力が失われ土のう設置部分で千曲川からの流入が始まる段階を基準と考えています。杭瀬下水位観測所の水位情報や市内河川の流下状況など現地状況を総合的に見ながら判断します。
14	東林坊川内を千曲川の水が逆流を始めるなど、被害が発生しうる状況となる際の千曲川の水位はどの位か。	浸水状況調査の解析結果によると、当時の水位上昇や浸水状況などから、杭瀬下水位観測所の水位が5m近くなると千曲川の水が東林坊川を通じて霞堤へ流れ込み、6mを越える状況になると霞堤内から市街地へ流れ込むことが推定されます。なお、当時は千曲川水位が6m時点において、降雨による内水氾濫の影響と重なることで被害が拡大したことを確認しています。

15	東林坊川への流入を大型土のうで遮った場合、水の流れはどのようになるのか。尾米川をはじめ、他の市内河川との関連はどうか。	東林坊川への流入を大型土のうで遮った場合、東林坊川自体の流れも遮られるため、上流からの流量により大型土のう設置箇所の上流側に内水が溜まります。上流からの流量が多い場合、東林坊川の大型土のう設置箇所上流部の霞堤内で浸水が発生するため、排水系統の見直しや支川水路の氾濫抑制等を行うことで浸水被害の軽減を図ります。 尾米川や五十里川は東林坊川と分水施設によって区切られているため、大型土のう設置による影響はないものと考えています。
16	市内を流れる川の水を、上流で取り入れを止めたり流量を減らしたりすることは可能か。	千曲川から取水している河川等は、取水停止をすることで流量を減らすことが可能で実際に対応しています。また、浸水被害が発生しないよう水門等で分水することで各河川の流量を調整しています。
17	排水系統の見直し等とあるが、記載されている以外にも想定されるものはあるか。	雨水貯留槽の設置、埴科幹線水路を貯留施設として利用、水田等を調整池として利用など時間差で排水を行う対策が考えられます。
18	住宅の雨水貯留タンクは流域全体で設置していくべき。効果の検証も含め推進すべき。	水資源の有効活用及び治水対策の一環として、市では雨水貯留施設の設置者に対し補助金を交付しています。千曲川流域市町村では、長野市、上田市、東御市、中野市で同様の補助制度があります。タンクの容量は250L程度の申請が多く、設置数に応じた貯留効果が見込めます。今後も治水対策の一つの手段として推進を図ってまいります。
19	公表された図表は地域住民であれば周知の事実。時系列によるシミュレーション結果による検証が必要では。	当時の降雨状況や、千曲川の水位状況、ポンプ場・水門稼働状況を時系列の条件としてシミュレーションを実施しています。時系列によるシミュレーション結果を踏まえて、浸水状況や浸水発生要因の検証を実施していますが、浸水実績としては、時間ごとの浸水範囲や浸水深の情報がなく、最大の浸水範囲と浸水深さの情報を基に再現性の確認を実施しているため、最大値における解析結果のみを取りまとめ、必要な対策の整理を行いました。
20	避難指示の発令基準は何か。市民にも確認できるものなのか知りたい。	発令にあたっては、市災害対策本部で決定し発令しています。発令基準は、洪水・土砂災害は災害の判断基準として、千曲市地域防災計画資料編に記載していますので、市ホームページで確認いただけます。
21	避難者数だけでなく、避難所の想定定員数も掲載して欲しい。	ご意見のとおり、想定定員数を掲載いたします。

22	避難をした人としらない人それぞれにアンケートをとり、避難する（しない）の判断基準を明確にすべき。	既に実施しましたアンケートの設問で避難の有無や、避難を決めた時点、避難しなかった理由をお聞きしておりますので、資料編で添付いたします。
23	逃げ遅れゼロの定義が曖昧。今回の災害では逃げ遅れゼロだったのか明記すべき。	本年6月に、長野県知事、県市長会長及び町村会長が「信州防災『逃げ遅れゼロ』」を宣言したことを受け、市では市民全員の命を守るため、適切に避難をすれば、人的被害を最小限に抑えることができることから、市民の「自らの命は自ら守る」認識のもと、自助、共助による防災力向上のため、マイタイムラインなど防災意識の向上を図り、災害時には危険な場所から全員が避難できるよう情報提供、避難場所の開設などに努めてまいります。今回の災害では、消防署等により救助されたケースもありましたが、その記載については検討いたします。
24	希望世帯への有料配布も含め、戸別受信機の一般世帯への導入は検討しないのか。	屋外告知放送を補完するため戸別受信機の導入を含め確実な情報伝達手段を検討してまいります。
25	市が考えている地域リーダーとは何か。消防団が担うことはできないのか。	地域リーダーとは様々な分野・場面で地域コミュニティを引っ張る方です。もちろん消防団もその一つですが、防災以外にも多くの分野でリーダーとなる方がいることで、さらに地域の力が強まると考えております。